

絢爛華麗。毛利家と井伊家・前田家に 伝わる名品が集います。

高島屋史料館の能装束コレクションは、433点。日本で有数の質と量を誇っています。今回は、その中から、前期に毛利家、後期に井伊家・前田家の、優品あわせて40余点をご紹介します。華麗な大名能に思いを馳せる新春展です。

新春を寿ぐ

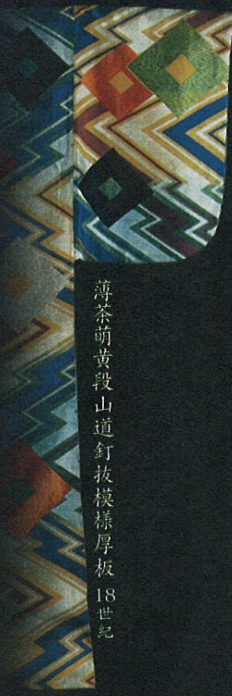
高島屋能装束コレクション

■〔前期〕1月4日(金)↓2月12日(火)
 高島屋史料館(大阪市浪速区日本橋3-5-25 / 高島屋東別館3階) ■ 入場無料 ■ 監修 国立能楽堂 門脇幸恵氏

■〔後期〕2月14日(木)↓3月26日(火)



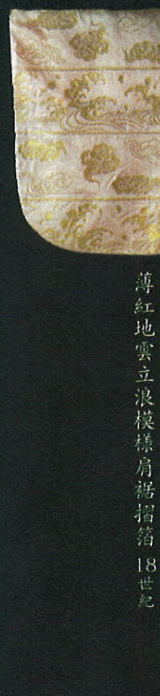
毛利家(前期展示)
紺地流水海松貝模様縫箔 18世紀



薄茶萌黄段山道釘被模様厚板 18世紀



井伊家(後期展示)
茶地花入格子秋草模様唐織 18世紀



薄紅地雲立浪模様肩裾摺箔 18世紀

高島屋史料館

高島屋史料館のご案内

午前10時→午後5時
 日・水曜日・年末年始他展示替日休館

Takashimaya

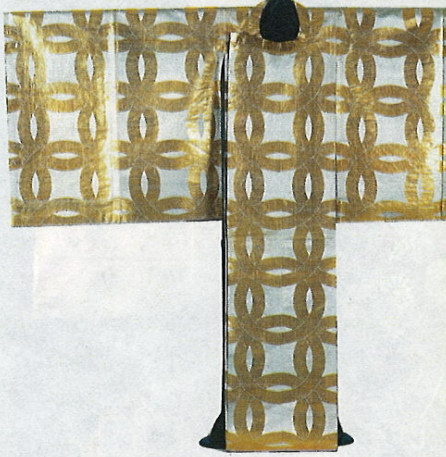
高島屋能装束コレクション

〔前期〕1月4日(金)→2月12日(火) 〔後期〕2月14日(木)→3月26日(火)
 ■ 高島屋史料館 (大阪市浪速区日本橋3-5-25/高島屋東別館3階) ■ 入場無料
 ■ 監修 国立能楽堂 門脇幸恵氏

前期展示 1月4日(金)→2月12日(火)



薄紅地雲立浪模様肩裾摺箔
18世紀 井伊家伝来



白地輪違模様袷狩衣
19世紀・江戸時代 井伊家伝来



紫地扇花丸模様舞衣
18世紀 井伊家伝来

能装束の種類

■唐織 (からおり)

女役の表衣(うわぎ)で能装束の中でも最も絢爛、豪華なもの。唐織は装束の種類名称の一つであるが、また織物の技法名でもある

■厚板 (あついた)

男役や荒神・鬼畜の装束として着付けに用いられ、法被・側次・長絹・水衣などの下に着用する。唐織同様もともとはこの装束に用いられる生地名称であったものが、これを用いた装束名称となった

■縫箔 (ぬいはく)

刺繍(縫)と摺箔(箔)が用いられていることからこの名がある。女役の表衣(うわぎ)として、あるいは腰に巻くように(腰巻)着用するが、男役、特に平家の公達、殿上人の役に着付として用いることがある

■摺箔 (すりはく)

型紙を用いて生地に糊を付着させ、金銀の箔を貼り付けて模様を表す摺箔の技法で加飾した女役の着付

■狩衣 (かりぎぬ)

袷(あわせ)と単(ひとえ)があり袷狩衣は大臣、貴人、神体、天狗など威厳のある役に用いる。一方単狩衣は貴人、老木の精など典雅、幻想的な役に使用され、紗や絹地に金糸、色糸で模様を縫い取り織に表わせた優美なものが多い

■法被 (はっぴ)

狩衣同様袷(あわせ)と単(ひとえ)がある。袷法被は武将の甲冑姿を表す時に用いられる。生地は金襴が用いられることが多い。一方、単は平家の公達の役柄に用いる。生地には単狩衣同様優雅な風合いのものが用いられる

■長絹 (ちょうけん)

紗や絹地に金糸や色糸で模様を縫い取るように織りあらわした単の表衣で、舞を主とした場面に男役、女役とも用い平家の公達役が単狩衣の代わりに用いることもある

■舞衣 (まいぎぬ)

長絹よりも丈が長く、衽(おくみ)を持ち、腋が縫いつけられていること、胸と袖先に紐をつけない点が長絹と異なる。舞の女役が用いる

後期展示 2月14日(金)→3月26日(火)



薄茶萌黄段山道釘抜模様厚板
18世紀 毛利家伝来



浅葱地鉄線唐草模様袷法被
19世紀 江戸時代 毛利家伝来



紅地松皮菱繫葛模様長絹
18~19世紀 江戸時代 毛利家伝来

高島屋史料館のご案内

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25
 高島屋東別館 南側入口3階
 TEL(06)6632-9102 FAX(06)6632-9195
 午前10時→午後5時
 日・水曜日・年末年始他展示替日休館

